

令和7年度徳島県立総合看護学校 第二看護学科 授業要項

基礎科目 ・ 専門基礎科目 ・ **専門科目**

科目名	基礎看護学概論	学年	1年・2年
担当者名	小川 昌子	時間数	30 時間
クラス	A 組	曜日・講時	曜日 講時
クラス	B 組	曜日・講時	曜日 講時
授業の目的	<p>看護の基礎となる主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学び、看護専門職としてのアイデンティティを形成していく基礎的能力を養う。 看護とは何かを考えることで、専門基礎分野での各領域への導入となり、個々の看護観を深めることができる。</p>		
授業計画	<p>1回目 看護とはなにか <ナイチンゲールと看護> 2回目 看護の変遷 看護の主要概念(1) 3回目 看護の主要概念(2) 4回目 実践に活かす看護理論(1) 5回目 実践に活かす看護理論(2) GW 6回目 実践に活かす看護理論(3) GW 7回目 実践に活かす看護理論(4) GW(発表) 8回目 看護の役割と機能 看護の対象の理解 9回目 健康状態と生活 10回目 職業としての看護 11回目 看護職者の継続教育とキャリア開発 12回目 看護における倫理 看護の提供のしくみ 13回目 看護の提供のしくみ 14回目 国際看護 災害看護 15回目 終講テスト</p>		
教科書 及び 参考書	<p><教科書> 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1]看護学概論,第17版,医学書院,2025. 城ヶ端初子編:新訂版 実践に活かす看護理論19,株式会社サイオ出版,2020. <参考書> 看護が見えるvol4 看護過程の展開 第1版,メディックメディア,2020. マージョリー・ゴードン著:ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン,照林社,2018. フロレンス・ナイチンゲール著,薄井担子・小玉香津子訳:看護覚え書き,現代社,2017. ヴァージニア・ヘンダーソン 著,湯楨ます・小玉香津子訳:看護の基本となるもの,日本看護協会出版会,2021.</p>		
成績評価の方法	<p>ペーパー試験(70%) 出席等授業態度、グループワーク、課題レポート(30%)</p>		
受講者へのメッセージ	<p>看護の基礎となる科目です。たくさんの理論家のテキストを読み、看護とは何なのか、自身が考える看護について理論に基づいて明確となるよう学びを深めて下さい。そのためにGWを多く取り入れています。活発な意見交換が行われることを期待します。 看護の「実践」と「理論」は表裏一体の関係です。理論について学んだことは今後の実習、看護研究にも役立ちます。</p>		
履修上の注意	<p>たくさんの内容を30時間に凝縮して講義、演習を行います。予習、復習は必ず行ってください。</p>		

令和7年度徳島県立総合看護学校 第二看護学科 授業要項

基礎分野 ・ 専門基礎分野 ・ 専門分野 ・ **統合分野**

科目名	臨床看護技術Ⅱ	学年	1年・2年・ 3年
担当者名	寄鍵 恵子	単位数	1単位 30時間
クラス	A組・B組	曜日・講時	
授業の目的	<p>①各領域の特徴を理解し、対象者に関心を寄せ、意図的に観察ができるよう知識を深め、アセスメント能力を高める</p> <p>②看護の対象である人々に対し身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護過程の展開ができる</p> <p>③対象者に応じた日常生活援助や症状緩和のための援助が、卒業時の到達度に準じてできる</p> <p>④臨地実習や演習などの経験をリフレクションし、臨床判断能力と看護実践能力を養うことができる</p>		
授業計画	<p>各領域（領域実習Ⅳ～Ⅵ）にて実施</p> <p><地域・在宅看護論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回訪問の心得 ・在宅看護技術演習 ・テーマカンファレンス ・各施設の情報交換と振り返り <p><成人・老年看護学（急性期）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連図について ・受け持ち対象者の関連図作成 ・周術期看護の演習 ・救急外来実習における施設間の学びの共有(GW) <p><老年看護学></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち対象者の関連図作成、振り返り ・嚥下障害の介助演習 <p><小児看護学></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマカンファレンス ・レクリエーション ・保育園実習の工夫した援助の発表 <p><母性看護学></p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：沐浴、バイタルサイン測定、授乳、保健指導 ・テーマカンファレンス <p><精神看護学></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマカンファレンス ・作業所での学びの共有、スライド作成し発表 		
教科書及び参考書	各領域の看護学に準ずる		
成績評価の方法	各実習領域での課題や出席状況など、総合しての評価		
受講者へのメッセージ	対象実習領域が個々で違うため、各自授業計画を把握して臨みましょう		
履修上の注意	実習期間中となりますので、スーツで登校してください		

令和7年度徳島県立総合看護学校 第二看護学科 授業要項

基礎分野 ・ 専門基礎分野 ・ **専門分野** ・ 統合分野

科目名	小児期にある人々	学年	1年 ・ 2年 ・ 3年
担当者名	麻植 晴美	単位数	1単位 30時間
クラス	A組 ・ B組	曜日・講時	
授業の目的	<p>少子超高齢社会を迎え、子どもを取り巻く環境は急速に変化している。変化する社会現象の中から、子どもの健康についての概念・小児看護の機能と役割を理解する。 小児保健の動向・小児保健対策を学び、それらをふまえて子どもの成長発達や特徴を理解し、子どもとその家族に対する看護の特殊性(子どもの療養の場を含む)を理解する。</p>		
授業計画	<p>第1回:小児看護の対象、小児看護の目標と役割・変遷、子どもの権利 第2回:小児と家族の諸統計、子どもと家族を取り巻く社会 第3回:小児の成長・発達 第4回:小児の成長・発達、小児看護に用いる理論 第5回:乳児の養育・看護 第6回:幼児の養育・看護 第7回:学童の養育・看護 第8回:思春期・青年期の看護 第9回:小児のアセスメント 第10回:小児のアセスメント(演習) 第11回:病気・障害を持つ小児と家族の看護、入院中の子どもと家族の看護 第12回:障害のある子どもと家族の看護 第13回:在宅療養、災害時の子どもと家族の看護 第14回:子どもの虐待と看護 第15回:終講試験</p>		
教科書 及び 参考書	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 看護師国家試験WEB</p>		
成績評価の 方法	<p>終講試験 小テスト 提出物 出席状況及び出席態度(演習、GWを含む)</p>		
受講者への メッセージ	<p>身近な子どもを観察しながら小児について考えてみよう。</p>		
履修上の 注意	<p>教科書をよく読んでおいてください。</p>		

徳島県立総合看護学校 第二看護学科 令和7年度 授業要項

基礎分野 ・ 専門基礎分野 ・ 専門分野

科 目 名	高齢者援助論	学 年	1年 ・ 2年 ・ 3年																																													
担 当 者 名	天野 雅代	単 位 数	1単位 30 時間																																													
ク ラ ス	A B	曜 日 ・ 講 時	曜日 講時																																													
授 業 の 目 的	老年期の看護過程を学び入院治療を受ける高齢者とその家族の援助方法を修得する。 高齢者の認知症ケア、人生の最終段階から生きることをささえる看護について学ぶ																																															
授 業 計 画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">1回目</td> <td style="width: 60%;">治療を必要とする高齢者の看護</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>認知症についての基礎知識</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>認知症ケアの実際</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>エンドオブライフケア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>生活療養の場における看護</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>事例による看護過程の展開</td> <td>情報収集シート</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>事例による看護過程の展開</td> <td>情報収集シート</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td>事例による看護過程の展開</td> <td>分析</td> </tr> <tr> <td>9回目</td> <td>事例による看護過程の展開</td> <td>分析</td> </tr> <tr> <td>10回目</td> <td>事例による看護過程の展開</td> <td>照合</td> </tr> <tr> <td>11回目</td> <td>事例による看護過程の展開</td> <td>看護計画</td> </tr> <tr> <td>12回目</td> <td>事例による看護過程の展開</td> <td>発表</td> </tr> <tr> <td>13回目</td> <td>高齢者のリスクマネジメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14回目</td> <td>高齢者のリスクマネジメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15回目</td> <td>終講試験</td> <td></td> </tr> </table>			1回目	治療を必要とする高齢者の看護		2回目	認知症についての基礎知識		3回目	認知症ケアの実際		4回目	エンドオブライフケア		5回目	生活療養の場における看護		6回目	事例による看護過程の展開	情報収集シート	7回目	事例による看護過程の展開	情報収集シート	8回目	事例による看護過程の展開	分析	9回目	事例による看護過程の展開	分析	10回目	事例による看護過程の展開	照合	11回目	事例による看護過程の展開	看護計画	12回目	事例による看護過程の展開	発表	13回目	高齢者のリスクマネジメント		14回目	高齢者のリスクマネジメント		15回目	終講試験	
1回目	治療を必要とする高齢者の看護																																															
2回目	認知症についての基礎知識																																															
3回目	認知症ケアの実際																																															
4回目	エンドオブライフケア																																															
5回目	生活療養の場における看護																																															
6回目	事例による看護過程の展開	情報収集シート																																														
7回目	事例による看護過程の展開	情報収集シート																																														
8回目	事例による看護過程の展開	分析																																														
9回目	事例による看護過程の展開	分析																																														
10回目	事例による看護過程の展開	照合																																														
11回目	事例による看護過程の展開	看護計画																																														
12回目	事例による看護過程の展開	発表																																														
13回目	高齢者のリスクマネジメント																																															
14回目	高齢者のリスクマネジメント																																															
15回目	終講試験																																															
教科書及び参考書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院																																															
成績評価の方法	出席状況、学習状況、終講試験																																															
受講者へのメッセージ	老年看護学実習で看護過程を実施できるように、実習後には、振り返ができるように、思考を育てる学習を一緒にしましょう。																																															
履修上の注意	自ら、学ぶ姿勢で臨んでください																																															

徳島県立総合看護学校 第二看護学科 令和7年度 授業要項

基礎分野 ・ 専門基礎分野 専門分野 ・ 統合分野

科 目 名	小児の成長・発達と家族を支援する看護	学 年	1年 ・ 2年 ・ 3年
担 当 者 名	濱崎 恵里奈	単 位 数	1単位 30 時間
ク ラ ス	AB合同	曜 日 ・ 講 時	曜日 講時
授 業 の 目 的	小児の疾患（病態生理、検査、治療）症状に対する看護など既習の知識を活用し、健康段階各期の小児の看護過程の展開について学ぶ。		
内 容 と 方 法	パワーポイントを用いた講義、GW（看護過程の展開）、外部講師による講義。		
授 業 計 画	<p>1回 オリエンテーション</p> <p style="padding-left: 20px;">小児とは 小児のアセスメント</p> <p style="padding-left: 20px;">ゴードンの枠組みを使ったアセスメント1</p> <p>2回 ゴードンの枠組みを使ったアセスメント2</p> <p>3回 ゴードンの枠組みを使ったアセスメント3</p> <p>4回 情報収集アセスメントの発表</p> <p>5回 慢性期の看護過程1(慢性期事例) 事前課題</p> <p>6回 慢性期の看護過程2</p> <p>7回 慢性期の看護過程3、終末期の看護</p> <p>8回 急性期・周手術期の看護過程1(急性期事例) 事前課題</p> <p>9回 急性期・周手術期の看護過程2(周手術期事例)</p> <p>10回 急性期・周手術期の看護過程3</p> <p>11回 パンフレット、プレパレーション作成</p> <p>12回 パンフレット、プレパレーション作成</p> <p>13回 パンフレット、プレパレーション発表</p> <p>14回 小児DV研修 (外部講師による特別講義)</p> <p>15回 終講試験</p>		
教 科 書 及 び 参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学1 医学書院 2020 ・ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学2 医学書院 2020 ・ 看護がみえるvol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア 2023 ・ 実習要項 第16期生 ・ その他 標準看護計画などの参考書 		
成 績 評 価 の 方 法	終講試験、GWでの提出物、出席状況及び授業態度等を総合的に判断し評価。		
受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ	GWを中心に小児領域の看護過程展開を学びます。自主的な取り組みを期待します。		
履 修 上 の 注 意	GWで使用するために必要な文献等は、各個人で準備をしてください。GWには個人ワークをした上で臨んでください。		

令和7年度 徳島県立総合看護学校 第二看護学科 授業要項

基礎分野・専門分野 **統合分野**

科目名	災害看護	学年	1年・2年 3年
担当者名	鱸 貴志	単位数	1単位 30時間
クラス	A組・B組	曜日・講時	
授業の目的	災害の各段階の特徴と、災害時の健康課題や看護ニーズ、看護職の役割、国内外の災害看護活動を理解できる。 国際看護学では、国際活動での基盤となる考え方をふまえ、世界の人々の健康課題や国際看護活動について学び、国際協力を支える国際機関について理解できる。		
授業計画	内容 1回目 災害看護学・国際看護学を学ぶにあたって、災害看護学の導入、災害看護学オリエンテーション 2回目 徳島で発生する災害とその対策 3回目 行政の応急・復旧対策と災害看護の関係 4回目 CSCATTT、災害看護と法律、災害サイクル、第7・8回GWのオリエンテーション 5回目 医療における災害対応の理解、急性期から復興期の災害対応の流れの理解 6回目 災害の医療マネジメントを知る、災害時の健康危機管理を知る 7回目 災害と心のケア、GW：被災者特性に応じた看護の発表資料作成 8回目 GW：被災者特性に応じた看護の発表、心のケア 9回目 優先順位と外傷診療、TTT 机上シミュレーション 10回目 演習：EVAC+CHAIR、暖段箱ベッド、応急処置など 11回目 演習：スタート法、PAD法、外傷の処置 12回目 避難所活動の机上シミュレーション、第11・12回演習と第13・14回GWのオリエンテーション 13回目 国際看護学とは、GW：国際看護について発表資料作成 14回目 GW：国際看護について発表、災害看護のまとめ 15回目 終講試験		
教科書及び参考書	医学書院：系統別看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 2025 看護師国家試験（災害看護学・国際看護学）過去問題集（各自で購入したもの）		
成績評価の方法	授業への出席と参加度、質疑応答、授業ごとのレジメの提出、課題などの提出 パソコンやタブレット・アプリなどの使いこなし グループワークへの参加度と取り組み及びグループ発表 終講試験（50%）		
受講者へのメッセージ	災害看護学・国際看護学を学ぶことの意義を理解し、医療従事者として知っておくべき知識・技術を習得し臨床現場で役立ててほしい。		
履修上の注意点	災害看護は専任教員と外部講師が担当します。		